

鹿児島県の産科婦人科医療を次の時代へ

鹿児島大学医学部産科婦人科学教室 第6代 戸上教授 就任



鹿児島大学大学院
医歯学総合研究科生殖病態生理学
鹿児島大学医学部産科婦人科学教室

教授 戸上 真一氏

産科婦人科学教室第6代教授就任の抱負

私は当教室へ入局して以来、歴代教授のご指導のもとで研鑽を積み、婦人科腫瘍を専門として診療・研究に取り組んでまいりました。今後は、これまで培ってきた経験を生かし、特に婦人科がん診療のさらなる充実に力を注ぎたいと考えています。当教室ではロボット支援手術を積極的に導入しており、鹿児島で

も最先端の治療を受けられる体制を維持していきたいと思っています。

また、産婦人科は「周産期」「婦人科腫瘍」「生殖内分泌」「女性ヘルスケア」の4つの領域で構成されていますが、女性の生涯を通じて、それぞれのライフステージに寄り添う医療を提供していきたいと考えています。

現在の鹿児島県における産科婦人科医療の現状

最も大きな課題は、産婦人科医の不足です。一時期は改善傾向にありましたが、近年は再び志望者が減少し、人材確保が難しくなっています。特に鹿児島県は広い県土に加え、多くの離島を抱えており、地域医療の維持が非常に重要です。県内唯一の大学医学部として、関連病院へ医師を派遣し、周産期医療をはじめ地域の産婦人科医療を支えることは、私たちの大きな使命だと考えています。

鹿児島県でも出生数は大きく減少し、年間の出生数は9000人を割りました。しかし、出生数が減少する時代だからこそ、一人ひとりの妊娠・出産を安全に支える体制を守ることが、これまで以上に重要になっていきます。将来の鹿児島、そして日本を支える子どもたちのためにも、安心して子どもを産み育てられる地域づくり貢献していきたいと考えています。

今後の展望

当教室の大きな強みは、患者さんの負担をできる限り軽減しながら、根治性の高い治療を目指す低侵襲手術です。ロボット支援手術を積極的に導入することにより、今年6月には子宮頸がん・子宮体がんに対するセンチネルリンパ節生検が保険適用となりました。

センチネルリンパ節生検により、必要なリンパ節郭清を避けることができ、術後の下肢リンパ浮腫などの合併症を軽減し、患者さんのQOL向上につながります。ロボット支援手術と組み合わせること、根治性を維持しながら、患者さんの体への負担をさらに軽減した治療を実践していきます。

産婦人科では、思春期から妊娠・出産、更年期、老年期まで、女性のライフステージに応じた医療を提供しています。しかし、私たち

産婦人科では、思春期から妊娠・出産、更年期、老年期まで、女性のライフステージに応じた医療を提供しています。しかし、私たち

